

施設類型 社会教育系施設

施設分類 博物館等

①施設概要

(みそら文化財整理室)

文化財保護法に基づき文化財資料の適切な保護及び保存を図ることを目的に設置しています。

(四街道市歴史民俗資料室)

江戸時代後期から昭和の頃までに使用されていた約 500 点の農耕器具や暮らしの民具類を展示することを目的に、八木原小学校の校舎内に設置しています。

(ふれあいセンター歴史民俗資料室)

戦後、開拓が行われた鹿放ヶ丘地区の当時の生活の様子や使用されていた生産用具等を展示することを目的に、鹿放ヶ丘ふれあいセンター（以下「ふれあいセンター」という。）内に設置しています。

施設分類	カルテ番号	対象施設	所在地	所管
博物館等	009	みそら文化財整理室	みそら 3-44-1	社会教育課
	119	四街道市歴史民俗資料室※1	千代田 5-4	
	120	ふれあいセンター歴史民俗資料室※2	鹿放ヶ丘 284-12	

※1 「四街道市歴史民俗資料室」は、小学校施設の「八木原小学校」の校舎内に設置しています。

※2 「ふれあいセンター歴史民俗資料室」は、集会施設の「鹿放ヶ丘ふれあいセンター」に設置しています。

【施設の位置図】



②現状と課題

【施設データ】平成 29 年度末現在

施設名	中学校地区	建設年	経過年数(年)	耐用年数(年)	延床面積(m ²)	運営形態	職員数(人)	支出額(千円)	収入額(千円)	差引収支(千円)	利用人数(人)	m ² あたり単価(千円)	利用者あたり単価(千円)
みそら文化財整理室	旭	H9	20	38	199	直営	0	44	0	△44	—	0.221	—
四街道市歴史民俗資料室	千代田	—	—	—	381※1	直営	臨2	1,444	0	△1,444	697	—	2.071
ふれあいセンター歴史民俗資料室	四街道西	—	—	—	189※2	直営	0	0	0	0	580	—	0

※1 記載の面積は、八木原小学校の延床面積のうち、四街道市歴史民俗資料室として使用している面積を記載しています。

※2 記載の面積は、鹿放ヶ丘ふれあいセンターの延床面積のうち、ふれあいセンター歴史民俗資料室として使用している面積を記載しています。

ア みそら文化財整理室

みそら文化財整理室は、鉄骨造平屋建て、延床面積 199 m²。平成 9 年に建設した新耐震基準の建物を、平成 15 年に印旛郡市文化財センターより譲渡を受けたもので、建設から 20 年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。

市内で発掘された埋蔵文化財の収蔵保管場所として使用しており、管理運営は直営で、管理運営費は 44 千円/年（市職員人件費を除く。）で、草刈や清掃等は職員で対応しています。

イ 四街道市歴史民俗資料室

四街道市歴史民俗資料室は、平成 21 年に八木原小学校の 8 教室の目的外使用許可を受け設置し、資料室全体の延床面積は 381 m²です。

開館日・開館時間は、土日祝日・年末年始・休校日を除く毎日、9 時から 16 時 30 分まで、管理運営は直営で、管理運営費は 1,444 千円/年（市職員人件費を除く。）となっています。週 2 回、臨時職員が資料整理や清掃等を行い、資料室の見学は予約制（無料）で、利用者数は 697 人/年となっています。

資料室では、江戸時代後期から昭和の頃まで使用されてきた約 500 点の農耕器具や暮らしの民具類を展示していますが、資料が分散しているため、管理が煩雑になっています。今後は資料の整理を進めるとともに、市民に本市の生活文化を継承していくための展示のあり方が課題となっています。

ウ ふれあいセンター歴史民俗資料室

ふれあいセンター歴史民俗資料室は、平成 7 年にふれあいセンターの 2 階部分に設置し、延床面積は 189 m²です。

開館日・開館時間は、ふれあいセンターの開館日等と同様に、月曜日（祝日の場合はその翌日）・年末年始を除く毎日、9 時から 21 時まで、管理運営は直営ですが、ふれあいセンターの管理と一体で行っているため、管理運営費（市職員人件費を除く。）はかかっています。

また、資料室は自由に見学でき（無料）、利用者数は 580 人/年となっています。

資料室には、鹿放ヶ丘地区における戦後の開拓当時の写真や開拓に使用されていた農機具や資料・年表などを展示し、常設展のみの運営となっています。

◎市内で発見・発掘された文化財については、これまで、収集と保存を中心に文化財の保護を進めてきましたが、貴重な文化財や歴史・生活文化の慣習等を次代の市民に継承していくためには、収集・保存する機能に加え、市民が貴重な資料に触れ、体験できるようにしていくことが有効と考えられます。

また、市内には、文化財の保護・保存や普及啓発に関わっている市民等が多数活動されている中で、こうした活動家の知恵や活力を活用して歴史民俗資料室等の運営について、市民等との協働の中で進めることが有効と考えられます。

③施設評価と対応方針

「施設の安全性、必要性」、「施設の有効性」、「管理運営の効率性」について以下のように分析しました。

【分析】

対象施設	施設の安全性、必要性	施設の有効性	管理運営の効率性
みそら文化財整理室	<ul style="list-style-type: none"> 耐震基準を満たしていますが、老朽化が進んでいます。 文化財保護法に基づき埋蔵文化財等を保護・保存していくため、今後も継続していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内で発掘された埋蔵文化財の収蔵保管機能のみとなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理運営費は埋蔵文化財の収蔵保管施設としての必要最小限としています。
四街道市 歴史民俗資料室	<ul style="list-style-type: none"> 八木原小学校若しくはふれあいセンターと一体的な施設となっています。 市の歴史や生活文化の歴史を学び、次代に継承する拠点として、今後も継続していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史資料を数多く展示していますが、資料が分散しています。 利用者数は、697人/年で、常設展のみとなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨時職員が週2日の勤務体制であったり、臨時職員が不在の場合は市職員が見学の対応にあたるなど、管理運営の効率性に欠けています。
ふれあいセンター 歴史民俗資料室		<ul style="list-style-type: none"> 利用者数は、580人/年で、常設展のみとなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいセンターの指定管理者が鍵の施錠等は行っていますが、見学者への説明などの対応は実施していません。

上記分析を踏まえて、当該施設については、以下のように評価し、対応します。

【評価結果】

対象施設	方向性		説明
	機能	施設	
みそら 文化財整理室	継続	廃止	【機能】 ・埋蔵文化財保護や収蔵物の保管のため、今後も継続していく必要があります。 【施設】 ・老朽化が進んでいるため、施設は廃止し、機能は他施設へ移転します。 【管理運営】 ・引き続き必要な管理運営を行い、移転した際は、移転先に合わせた管理運営手法の検討が必要です。
四街道市 歴史民俗資料室	継続	—	【機能】 ・歴史を学ぶ場として、また、歴史を未来へ継承する拠点として、今後も継続していく必要がありますが、資料室が校舎内に分散しており、管理面の効率性や見学者の利便性を考え、移転集約するなどの検討が必要です。 【管理運営】 ・臨時職員が週2日の勤務体制で、必要に応じ市職員も対応していますが、管理運営の効率性を図るため、市民等との協働の中で管理運営するなどの仕組みづくりの検討が必要です。
ふれあいセンター 歴史民俗資料室	継続	—	【機能】 ・鹿放ヶ丘地区の開拓の歴史を学ぶ場として、また、歴史を未来へ継承する拠点として、今後も継続していく必要があります。 【管理運営】 ・指定管理者が鍵の施錠等は行っていますが、見学者への説明などの対応は実施していないことから、見学者の利便性を図るため、市民等との協働の中で管理運営するなどの仕組みづくりの検討が必要です。

【対応方針】

- 博物館等施設は、これまでの収集・保存を中心とした埋蔵文化財保護の取り組みに加え、現在は、観賞・体験型の取り組みが有効と考えられていることから、今後の文化財資料の保存・活用や施設の配置・管理運営のあり方を検討します。
- みそら文化財整理室は、老朽化が進んでいるため廃止し、他施設への機能の移転・統合を進め、機能移転後は、現施設のあり方を検討します。
- 四街道市歴史民俗資料室は、管理面の効率性や見学者の利便性を図るため、機能を集約するなどの取り組みを行います。

○博物館等施設の管理運営については、埋蔵文化財保護や歴史資料の収集・研究に精通した市民等と協働で管理運営を行う仕組みづくりを進め、施設の特性に合った、より効率的で利便性の高い管理運営手法の検討を行います。

④展開スケジュール

課題事項	2017年度 (H29年度)	2018年度 (H30年度)	2019年度 (R元年度)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	2027年度 (R9年度)	2028年度 (R10年度)
文化財整理室・歴史民俗資料室のあり方等の検討			●	→	●				検討結果に基づく対応			→
(検討事項) ①文化財資料の保存・活用のあり方（体験型施設など）、②施設の配置、③管理運営のあり方（市民等との協働）、④文化財整理室の移転、⑤四街道市歴史民俗資料室の効率性・利便性												
文化財整理室の廃止及び廃止後の現施設のあり方の検討			●	→	●							
			●	→	●				検討結果に基づく対応			→

施設類型 社会教育系施設

施設分類 図書館

①施設概要

図書館は、図書をはじめとする多様な資料を収集・整理・保存し、市民に情報提供するとともに、市民の生涯学習活動を支援する拠点施設として設置しています。また、各公民館には図書室を設置しています。

施設分類	カルテ番号	対象施設	所在地	所管
図書館	010	図書館	大日 396	図書館

【施設の位置図】



②現状と課題

【施設データ】平成29年度末現在

施設名	中学校地区	建設年	経過年数(年)	耐用年数(年)	延床面積(m ²)	運営形態	職員数(人)	支出額(千円)	収入額(千円)	差引収支(千円)	利用人数(人)	m ² あたり単価(千円)	利用者あたり単価(千円)
図書館	四街道北	S58	34	50	1,822	直営	正6 委12	63,405	60	△63,345	101,215	34.799	0.626

図書館は、鉄筋コンクリート造3階建て（地下1階）、延床面積は1,822 m²。昭和58年に文化センターに併設して建設した新耐震基準の建物ですが、建設から34年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。

開館日・開館時間は、毎月第1・4月曜日・年末年始を除く毎日、9時から19時まで（土日祝日は17時まで）、管理運営は直営ですが、貸出業務など一部の業務は委託し、管理運営費は63,405千円/年（市職員人件費を除く。）で、この内、業務委託料は51,900千円/年となっています。

図書館の蔵書数総数は249,580冊（平成29年度の図書等購入10,488冊、17,436千円）で、車両による24ヶ所の移動図書館での貸出を含め、貸出冊数総数は338,604冊/年となっています。

閲覧室は、3階層に分かれて配置し、閲覧席は66席設置していますが、自学自習室の充実に係る市民要望が多いことから、隣接する文化センターの1室を賃借し、学習席として14席を提供しています。

なお、3館ある公民館の図書室に図書館システムと図書資料を提供し、市内図書館ネットワークを築き、3館合わせ、蔵書数は21,795冊、貸出冊数総数は20,240冊となっています。

図書館は、これまで資料の貸出を中心に運営してきましたが、近年はインターネットでの本の検索や貸出予約が可能となるなど、在宅での利用環境の整備も進んでいます。また、これからの時代に求められる図書館の役割として、さまざまな図書館サービスを長く楽しめる滞在型図書館の機能及び地域課題の解決に取り組む市民の学習活動の支援や情報提供が求められてきていると考えられます。さらに施設の面では、耐震上の課題はありませんが、4層構造の建物のため、利便性・効率性・バリアフリー・学習スペース不足などに対する課題が生じています。

③施設評価と対応方針

「施設の安全性、必要性」、「施設の有効性」、「管理運営の効率性」について以下のように分析しました。

【分析】

対象施設	施設の安全性、必要性	施設の有効性	管理運営の効率性
図書館	<ul style="list-style-type: none"> 耐震基準を満たしていますが、老朽化が進んでいます。 市内唯一の公共図書館として、また、市民の生涯学習や情報拠点として、今後も継続していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 約 10 万人/年の利用があり、多くの市民に利用されていますが、滞在型の図書館としてのニーズや学習の場の提供など、新たな役割が求められてきていると考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出業務など、一部の業務を委託し、効率化を図っています。

上記分析を踏まえて、当該施設については、以下のように評価し、対応します。

【評価結果】

対象施設	方向性		説明
	機能	施設	
図書館	継続	検討	<p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内唯一の公共図書館であり、また、市民の生涯学習や情報拠点として、今後も継続していく必要があります。 <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震上課題はありませんが、施設の老朽化が進んでいること、4 層構造のため効率性・利便性・バリアフリーの面から課題があること、閲覧場所や学習スペースなどの面積の確保など、隣接の文化センター会館棟の活用も含めた施設のあり方の検討が必要です。 施設を継続する場合は、予防保全を含め、施設の計画的な改修などを行い、長寿命化を図る必要があります。 <p>【管理運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行の管理運営体制の検証を行いながら、更なる効率化に向けた改善点がないかなどについて定期的に検討を行い、図書館サービスの向上と経費縮減に努める必要があります。

【対応方針】

- 4 層構造による施設の課題への対応、不足する閲覧場所や学習スペースの対応、公民館の図書室との連携やインターネット環境の整備状況などを踏まえたうえで、今後の図書館の施設やサービスのあり方について、隣接する文化センター会館棟の活用も視野に入れつつ検討します。併せて、より効率的な管理運営手法についても検討します。
- 上記検討結果が出るまでの間、現在の施設については必要な修繕を行い、管理運営については平成 28 年 8 月に方針決定した現在の一部委託を継続しながら、社会情勢や環境変化等に応じ、最も効果的で効率的な市民サービスが提供できる運営手法についての検討を行います。
- 現施設を継続する場合は、予防保全を含め、施設の計画的な改修などを行い、長寿命化を図ります。

④展開スケジュール

課題事項	2017年度 (H29年度)	2018年度 (H30年度)	2019年度 (R元年度)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	2027年度 (R9年度)	2028年度 (R10年度)
図書館のあり方等の検討及び長寿命化計画の策定（現施設で継続する場合）			●	●	●							
	施設やサービスのあり方などの検討											
					●	●						
	長寿命化計画策定											
							●	●				
	検討結果に基づく対応											
										●	●	
	計画に基づく対応											
											●	●
	効果的で効率的な運営手法の検討											
(検討事項)	①4層構造の課題、②不足スペースの対応、③文化センターの活用、④効果的で効率的な運営手法の検討											